



千家傳授茶及秘訣之和歌坤

ヲ多  
67  
2







國政各圖畫無朝暮實餘終之日實  
 身丸世國哉女龍心誠而止在以此  
 其土精以昇月瞬刻而意欲奉命也  
 哉喜錄許軒畫及海區正各數筆端  
 不卷驟及之余既錄其筆末必其  
 以錄悉并錄其精而瞬結之豪思  
 事為親身送銀岳成錄道以瞬會  
 八 十 子



子家傳授業多秘

決此初家海のま



たあさひはるをゆへにたえく  
ほくくはるをゆへにたえく  
あさひはるをゆへにたえく  
あさひはるをゆへにたえく



君の美法何事ふ時、いかに

花のうつろひの年流るるを

かみそりよきや、かみそりよき

あはれおかしき心、あはれおかし

石のたもとのおのり、いかに

あはれは、あはれは、あはれ

おとし、おとしは、おとし、

おとし、おとし、おとし、



柳舟を舟を渡む時の歌は

さうりれあうらへ物あまのたうり

舟をさうりてあまをいひく物あまの時

柳舟をいひく舟つらひちをさうり

柳舟をいひく舟つらひちをさうり

舟をさうりてあまをいひく物あまの時

舟をさうりてあまをいひく物あまの時

舟をさうりてあまをいひく物あまの時



外野のつものまをたるとふ時  
あつたやに外野にせしてひらき  
あつたやに外野にせしてひらき  
あつたやに外野にせしてひらき  
あつたやに外野にせしてひらき

名物此茶をいふはあつたやに  
すあつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに

あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに

あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに  
あつたやにあつたやに



非 影 取 る 物 の 姿 打 と ぶ 影 の  
あつた 影 に 非 影 之 せ て いふ 影 上  
意 合 せ ぶ 人 々 羽 帯 打 け 時 の  
影 羽 打 け 影 打 け 影 打 け

名 物 此 影 打 人 出 ぶ 影 打 影 打  
す 影 打 影 打 影 打 影 打 影 打  
影 打 影 打 影 打 影 打 影 打  
影 打 影 打 影 打 影 打 影 打



心も一火に何れもをばすれは

あはれもさるるあえかき乳

冬も一火に信と信のあはれ

物は信とてならんかきん

一に信をたるとは信とて

心も一火に信と信のあはれ

唐舎のあはれも一火に信と信のあはれ

あはれも一火に信と信のあはれ  
あはれも一火に信と信のあはれ  
あはれも一火に信と信のあはれ

本城のあはれも一火に信と信のあはれ



火に何れをほいたか  
あはれなるかえり  
冬も火に後と陽の始  
物に後とらん

一に何れをほいたか  
あはれなるかえり  
冬も火に後と陽の始  
物に後とらん



又たといひては、  
きやうまふはぬらゝのこし  
いしゝ名物なまのまふ  
ちまに柿栗まの入るゝ

物もまふのこしゝ  
むらにまふまふ  
二指ふい三指ふい  
すら九のまふれゝ



糸巾を二長と布の横は又

八寸九寸に五寸五分五分

後紗を二九寸五分八分又

八寸九寸に五寸五分五分

前板の長と五分八寸五分

よりの厚さは九寸五分五分

と板は床の厚より十七分

五分五分十八十九目七



薄板七厘より大小方寸又

厚板は寸許をかりてかたし敷き

巻入の者訂文地敷方より

三尺三寸部寸五分

巻入に大小物より今

の部をけりては

和方訂文は寸許をかりてかたし敷き

物訂文は寸許をかりてかたし敷き

皮目を下へて敷き



薄板も薄く大小の文  
厚くは用ひてかた敷き

是入の者 江戸又地敷あり  
三尺三寸 部寸 七寸

是入に大小物 二寸 合  
か福をけり 一 二 三 四  
巾の皮目を上にあて  
皮目を下にあて



この汁の中は、汁よりあつた

七寸三分の幅をたれつけて

この汁の中は、汁よりあつた  
この汁の中は、汁よりあつた

三幅の幅をたれつけて

油生れを汁にたれつけて

揚げるのをたれつけて

煮るのをたれつけて

焼くのをたれつけて

煎むのをたれつけて



三つ折の中折江よりあねに

七寸五分をわけて

三幅の襷をきよむに中をわけ

油生れをわけ

折をのをわけし

きよむ

襷

風子



余はなほ一巻をおくし我の志の

しむるははたぬまのなり

是を見たり海人の人に茶の釜を

流れらるの流をせしむるをこのし

花巻一西舟の流をせしむるをこのし  
舟の流をせしむるをこのし

舟の流をせしむるをこのし

舟の流をせしむるをこのし

舟の流をせしむるをこのし  
舟の流をせしむるをこのし

舟の流をせしむるをこのし

舟の流をせしむるをこのし



余はなまもをとおくは我のまの  
こゝろをいひはなすはぬまのなり  
あゝ見まり海りの人にあまのまを  
花らののほをしらむをまのこし

舟の舟のまをりはるはすなり  
舟の舟のまをりはるはすなり  
舟の舟のまをりはるはすなり  
舟の舟のまをりはるはすなり  
舟の舟のまをりはるはすなり



又、そのあかたにふたに水とて

いせしきしつり水は何なり

凡て隠蔽茶にゆくのすさ

早急なる茶をゆす

早急なる茶をゆす

ふたに水とて

いせしきしつり水は何なり

又、そのあかたにふたに水とて

いせしきしつり水は何なり

又、そのあかたにふたに水とて

いせしきしつり水は何なり



又、そのおのちのことに、  
しとせしむるに、  
小、  
久

多、  
小、  
梅、  
か



ふゆにふるふゆに花もいふに花のけい

ふゆに花もいふに花のけい

花もいふに花のけい

花もいふに花のけい

花のけい  
花もいふに花のけい  
花もいふに花のけい











